

タイトル「いねかり」(自然④「自然の生き物や天気を気をつけて見る」)

愛知連盟 三河葵地区 西尾第6団 ビーバー隊

|          |   |
|----------|---|
| 集会日      | 2022年9月11日(日)   |
| 集会場所     | チャレンジ広場   |
| 集会時間     | 15:00 ~ 17:30   |
| 集会のねらい   | 田植えをしてから5か月。稲穂が頭を垂れる時期になりました。稲刈りの体験と、刈ってすぐには食べられないことを学びます。そして、食べられるようになることを期待して、去年収穫したお米を炊いて、みんなで味わってみましょう。 |
| ミッションカード | 健康②「食べ物のすききらいをなくすようにする」   |

活動内容：稲刈り作業を体験した

展開

田植えの段階からお世話になっている永井さんのお宅の田んぼで、自分たちが田植えを行った稲の収穫作業を体験した。

稲刈りから、はざがけまでを体験した。その後、昨年収穫したお米を炊いておにぎりをつくり、皆で味わいました。

評価・反省

重労働ですが、スカウトらはよく頑張りました！！大変な作業でしたが、刈り取りを終えた田んぼをみたり、ずっしりと「はざ」にかかった稲を見ると、達成感を得られるのではないのでしょうか。単純な作業ですが、やってみると、鎌の使い方もなくわからなかったり、作業している中で(どう使えば、楽に切れるのだろうか)と考えたりと、いろんな気付きや学びが会ったと思います。この「行うことによって学ぶ」というのが、ボーイスカウトの特徴です。

(澤)

今では機械で稲刈りをする事が多いため、なかなか体験できない手作業での稲刈りを体験させてあげることができ、素手でやることの大変さが子供たちにも伝わったと思います。また、自分達がいつも食べているごはんができるまでに大変な時間と手間がかかっていることが伝わりいい勉強になったと感じました。

(高山)

参加者

スカウト 9/9名

兄弟姉妹 3名

体験 0名

※児童計 12名

その他

育成総会までに次年度(2022秋~2023秋)の活動計画をお示しします。

年度の終わりに寄せて

ビーバー隊長 澤 朋宏

ことしも、みなで植えた稲の刈り取りをすることができました。気持ちの良い秋晴れで、空高いところに飛行機雲が流れるのを見ると、暑かった夏もいよいよ終わりを告げて、季節が進んでいくことを感じます。年度替わりのタイミングで、あらためて、「ボーイスカウト」が目指している青少年教育について記したいと思います。

毎回、遊んでいるように見えるビーバースカウトの活動ですが、はい、しっかりと遊んでいます（笑）。楽しく感じられるようにすることで、スカウトらが自発的に取り組めるようにしています。しかし、ただ目的もなく遊ぶのではなく、「行うことによって学ぶ」「仲間を意識する」「自分や仲間の成長・発展を認め合い、称賛し合う」ことを大切にしていきながら、やがて、誠実さや勇気、自信、国際愛や人道主義を把握し、いまの社会をより発展させられるヒトになれば・・・というところを目指しています

もちろん、ビーバースカウト部門は、その道のりの入り口です。ビーバースカウトの「やくそく」は【ぼくは（わたしは）みんなとなかよくします】【ビーバー隊のきまりを守ります】というふたつで、その「きまり」は【げんきにあそびます】【ものをたいせつにします】【よいことをします】という3つです。

この、「やくそく」と「きまり」を大切に、折に触れてその実践について言及しながら、①みんなとともに仲良く遊ぶこと、②自然と親しむこと、③楽しみや喜びを分かち合うことを積み重ねていく中で、小2の秋までの2年かけて成長させていきます。

伸びていく力は、近年話題の「非認知能力」とも言われるものなので、テストの成績のように一朝一夕には「成長」を感じられるものではないと思います。

しかしながら、ビーバースカウトがカブスカウト（小2秋～小5秋）になり、ボーイスカウト（小5秋～中3）、ベンチャースカウト（高校生年代）、ローバースカウト（18歳～25歳）へと進歩を重ねていく中で、必ずや、「ひととしての成長」を遂げられるように整えていこうと考えています。

地域の子どもたちを、地域のおとなたちで育てる活動です。今後とも、ぜひご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

国立青少年教育振興機構 「体験の風をおこそう」より

<https://taikennokaze.jp/about>

<当日スナップ>

